

機関番号：84413

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320131

研究課題名（和文） 東アジアにおける難波宮と古代難波の国際的性格に関する総合研究

研究課題名（英文） Synthetic Research on the International Character of the Naniwa Palace and the Ancient Naniwa in East Asia

研究代表者

積山 洋 (SEKIYAMA HIROSHI)

財団法人 大阪市文化財協会・大阪歴史博物館・学芸員

研究者番号：80344365

研究成果の概要（和文）：本研究では、考古学を中心とする学際的チームにより、古墳時代以後の古代難波の国際的な性格を徹底的に探った。その柱は以下の2点である。(1) 日本古代王宮の原点をなす前期難波宮や難波京の研究、その源流たる中国や朝鮮半島の都城の研究。(2) 古墳時代以来の古代難波にみる外来的文物の個別研究。これらを通じて東アジア史の中に古代難波を位置づけ、その国際性を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In this study, we investigated international character of ancient Naniwa in present Osaka prefecture from the 5th century to the 8th century thoroughly. The main themes were two of the following. (1) The studies of the Naniwa Capital and Naniwa-no-miya Palace which made the origin of the Japanese ancient royal palace, and the studies of the capital and royal palace in China and Korea. (2) The studies of various products of foreign countries, for example China and Korea, in ancient Naniwa. We placed ancient Naniwa through these studies before the history of East Asia and clarified the internationality.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	5,000,000	0	5,000,000
2007年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2008年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2009年度	2,500,000	750,000	3,250,000
総計	13,600,000	2,580,000	16,180,000

研究分野：考古学

科研費の分科・細目：

キーワード：国際性、考古学、古代史、東アジア、都城、難波宮

1. 研究開始当初の背景

(1) 古代の難波は「畿内の表玄関」と言われ、常に大陸からの新しい文化の窓口として機能してきたことは、誰しもが認めるところである。しかしながら、その具体相となると、難波宮が中国風の宮室であろうという以外、顕著な事例はかなり不明確であった。

(2) 近年、中国、朝鮮半島と日本列島との人的流動化（交流）はかつてなく大規模なものとなってきた。このような東アジアの海を越えた交流の大きな進展に伴い、考古学・古代史学においても、列島の枠組みを越える新たな研究が求められるようになってきた。

(3) そこで、上記(1)のような漠然たる「難波

＝対外交流の窓口」という認識を捨て、できるだけ多くの素材から、古代難波の国際的性格を具体的に探る試みが求められるに至った次第である。

(4) 当時、考えられた素材としては、以下の通りである。まず、難波宮・京などの古代都城があるが、この点、中国での発掘調査の進展は目覚しく、また韓国でも百済の地における宮殿・寺院の解明が進んできたことが大きい。また、新羅・百済などから難波に搬入された土器の様相が次第に垣間見えつつあった。都城と外来土器の二つは、「国際性」をさぐる大きなテーマとなることが予測された。

そのほか、百済王氏などの渡来系氏族、牛馬などの列島への渡来とその展開、これらを支える水陸交通の整備など、視点を定めれば、扱えるテーマは非常に多岐にわたっていた。

2. 研究の目的

(1) 日本古代都城の原点である前期難波宮の宮殿プランの源流を、東アジアの古代都城から探る。(2) 古代の難波における様々な外来的要素を探り、難波の国際的性格を明らかにする。

3. 研究の方法

主な研究方法は以下の通りである。

- (1) 研究会（都城制研究会）を組織し、上記の二つの目的に沿った研究活動を定期的に行うこと。
- (2) 都城や土器に焦点を絞った海外調査や書籍購入により、資料を収集すること。
- (3) 海外の重要論文を翻訳し、古代難波の研究に役立てること。
- (4) 自然化学分析を行い、環境復原等に努めること。

4. 研究成果

- (1) 研究会は初年度の10月にスタートし、2ヶ月に1回、計21回開いた。その結果、44本の報告があり、その半分以上が本科研のメンバーであった。テーマは都城を中心としつつも、本科研の趣旨に沿うものを広く取り上げた。このような研究会は国内にはなく、独自色の強いものであった。
- (2) 奈良女子大学 COE や他の科研グループと共催する「都城制研究集会」を年1回、計4回開き、多彩なテーマを取り上げることができた。この研究集会は大規模であること、韓国、中国の研究者を招いての国際シンポであることなどが特徴である。
- (3) 翻訳は中国語の論文3本に対して行った。いずれも都城制の論文であり、原著者は故史念海氏、郭湖生氏らであり、日本の都城制研究に与える影響は大である。
- (4) 自然化学分析は動物遺存体、花粉分析の

2件を行った。古代難波の牛馬のあり方、また当時の環境復元に資するものである。

(5) 最終年度には300頁に及ぶ報告書を作成し、各自の論文12本と翻訳論文3本のほか、自然科学分析報告2本を収録した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計41件)

- ① 村元健一 「中国複都制における洛陽」『都城制研究』査読無、(4)、2010、43-53
- ② 佐藤隆 「後期難波宮の造営過程と“副都説”の再検討」『条里制・古代都市研究』査読無、第25号、2010、24-41
- ③ 積山洋 「大極殿の成立と前期難波宮内裏前殿」『都城制研究』査読無、(2)、2009、1-16
- ④ 李陽浩 「古代の「根焼き」について」『建築史学』査読有、第53号、2009、41-49
- ⑤ 古市晃 「難波における京の形成」『都城制研究』査読無、(3)、2009、65-76
- ⑥ 寺井誠 「古代難波に運ばれた筑紫の須恵器」『九州考古学』査読有、第83号、2008、78-90
- ⑦ 寺井誠 「古代難波におけるふたつの瓶を巡って」『大阪歴史博物館 研究紀要』査読有、第7号、2008、1-18
- ⑧ 李陽浩 「古代四天王寺における寺域の再検討」『建築史学』査読有、第50号、2008、2-31
- ⑨ 積山洋 「牛馬観の変遷と日本古代都城」『古代文化』査読有、第59巻第1号、2007、40-55
- ⑩ 積山洋 「中国古代都城の軸線プランと正殿」『条里制・古代都市研究』査読無、第22号、2007、118-131
- ⑪ 村元健一 「前漢皇帝陵の再検討」『古代文化』査読有、第59巻第2号、2007、38-60
- ⑫ 村元健一 「東魏北齊鄴城の復元研究」『大阪歴史博物館 研究紀要』査読有、第6号、2007、1-26

[学会発表] (計39件)

- ① 積山洋 「難波京の条坊区画」第4回都城制研究集会、2010年2月20日、奈良女子大学
- ② 村元健一 「秦漢魏晋南北朝時代の都城と陵墓の研究」関西大学東洋史研究会、2010年1月9日、関西大学
- ③ 寺井誠 「外交の窓口難波の考古学的研究」大阪市文化財協会・嶺南文化財研究院交流10周年記念シンポジウム「古代の嶺南と大阪の出会い」学術論文発表会、2009年12月19日、韓国国立大邱博物館
- ④ 中尾芳治 「難波宮から藤原宮へー日本古代宮都の成立過程をめぐってー」大阪市立大

学日本史学会、2009年5月16日、大阪市立大学

- ⑤積山洋「複都制下の難波京」第3回都城制研究集会、2009年3月1日、奈良女子大学
- ⑥寺井誠「古代難波の新羅・百濟土器」日本考古学協会第74回総会、2008年5月25日、東海大学
- ⑦佐藤隆「後期難波宮の造営過程と“副都説”の再検討」条里制・古代都市研究会第25回大会、2008年3月9日、奈良文化財研究所
- ⑧古市晃「七世紀史研究から見た難波宮仮名木簡の意義」大阪市立大学都市文化研究センター 重点研究シンポジウム、2007年11月24日、大阪市立大学
- ⑨寺井誠「孝徳朝における古代難波の都市建造とその後」日本考古学協会第73回総会、2007年5月27日、明治大学
- ⑩中尾芳治「日本都城の変遷」シンポジウム 京都三都と渡来人、2006年10月15日、京都アスニー
- ⑪積山洋「難波長柄豊碕宮（前期難波宮）の殿舎」古代都城制研究シンポジウム 難波宮と飛鳥宮、2006年7月29日、大阪歴史博物館

〔図書〕（計3件）

- ①植木久、同成社『日本の遺跡シリーズ 難波宮』2009、171
- ②古市晃、塙書房『日本古代王権の支配論理』2009、357
- ③中尾芳治・佐藤興治・小笠原好彦、ミネルヴァ書房『古代日本と朝鮮の都城』2007、3-28、47-61、162-172

6. 研究組織

(1) 研究代表者

積山 洋 (SEKIYAMW HIROSHI)
財団法人 大阪市文化財協会・大阪歴史博物館・学芸員
研究者番号：80344365

(2) 研究分担者（2006年度のみ）

中尾 芳治 (NAKAO YOSHIHARU)
帝塚山学院大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：70227734
長山 雅一 (NAGAYAMA MASAKAZU)
流通科学大学・情報学部・教授
研究者番号：50258167
佐藤 隆 (SATO TAKASHI)
財団法人 大阪市文化財協会・文化財研究部・学芸員
研究者番号：50344362
寺井 誠 (TERAI MAKOTO)
財団法人 大阪市文化財協会・大阪歴史博物館・学芸員

研究者番号：60344371

古市 晃 (FURUICHI AKIRA)
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究者番号：00344375
李 陽浩 (LEE YANGHO)
財団法人 大阪市文化財協会・大阪歴史博物館・学芸員
研究者番号：10344384
村元 健一 (MURAMOTO KENICHI)
財団法人 大阪市文化財協会・大阪歴史博物館・学芸員
研究者番号：90344382
宮本 佐知子 (MIYAMOTO SACHIKO)
財団法人 大阪市文化財協会・文化財研究部・学芸員
研究者番号：80393289

(3) 連携研究者（2007～2009年度）

中尾 芳治 (NAKAO YOSHIHARU)
帝塚山学院大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：70227734
長山 雅一 (NAGAYAMA MASAKAZU)
流通科学大学・情報学部・教授
研究者番号：50258167
佐藤 隆 (SATO TAKASHI)
財団法人 大阪市文化財協会・文化財研究部・係長
研究者番号：50344362
寺井 誠 (TERAI MAKOTO)
財団法人 大阪市文化財協会・大阪歴史博物館・学芸員
研究者番号：60344371
古市 晃 (FURUICHI AKIRA)
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究者番号：00344375
李 陽浩 (LE YANGHO)
財団法人 大阪市文化財協会・大阪歴史博物館・学芸員
研究者番号：10344384
村元 健一 (MURAMOTO KENICHI)
財団法人 大阪市文化財協会・大阪歴史博物館・学芸員
研究者番号：90344382
宮本 佐知子 (MIYAMOTO SACHIKO)
財団法人 大阪市文化財協会・文化財研究部・学芸員
研究者番号：80393289

(4) 研究協力者

植木 久 (UEKI HISASHI)
大阪市教育委員会・文化財保護課・研究主幹
八木 久栄 (YAGI HISAE)

難波宮整備計画委員